

記事

[Hiroshi Sato](#) · 2022年6月1日 3m read

ODBCを利用してVisM.OCX(Cache Direct)をエミュレーションする

Cachéでは、今後の新しいOSのサポート、例えばWindows 11やWindows 2022のサポートは行われないことになりました。

いいよ新しいサーバハードウェアを導入するとCachéが使えなくなる可能性が高くなってきました。

皆さんIRISへの移行をお目にご検討ください。

IRISへの移行の際に障るものがVisM.OCXを利用したアプリケーションの移行です。

IRISでこの機能は制限付きで利用可能です。

しかし、そのためには少々面倒な手続きが必要です。

(この手続きについてはインタシステムズにお問い合わせください)

しかしこの手続きを暫定処置で将来なくなる可能性ゼロではありません。

ところでなんでそんな面倒くさい手続きが必要なの感じもいると思います。

その理由は、

VisM.OCXがマイクロソフトの非常に古いAPIを利用して、開発元のマイクロソフトそれを全くサポートしていませんし、セキュリティ脆弱性の対応等も全く行われていません。

そんなAPIなので、インタシステムズもサポートするのが困難です。

一方で、世の中、セキュリティに関しては増々厳しい対応が求められてきています。

そのためインタシステムズもセキュリティ対策には十分注意して対応しており、セキュリティの脆弱性が見つからばできるだけ速やかに対応しています。

そして、速やかに対応するだけでは十分ではありません。

インタシステムズの製品をお使いいただいているお客様のすべてのシステムがセキュリティ対応されたバージョンで運用することを指さないといけません。

なのでVisM.OCXをお使いいただくことは、この方針に反することなのですが、猶予期間を与えることで暫定的に許容しているということになります。

前置きが長くなりましたが、そういうVisM.OCXユーザの移行為を推進するために以前Open ExchangeにCacheDirectエミュレータというものを登録しました。

[CacheDirectエミュレータ](#)

このエミュレータの開発の前提は、Visual Basic 6ユーザが.Net Frameworkに移行して、VisM.OCXの代わりにそのエミュレータを使うという想定でした。

ところが、VisM.OCXユーザの中には、Visual

Basic以外の開発ツールを使っている人もいることがわかってきました。

ということで今回、.Netに依存しないODBCを利用したのを作成しましたので、公開します。

[ODBC版Cache Directエミュレータ](#)

.Netに依存しないとは言え、VisM.OCXのラッパークラスのサンプル実装はC#で記述しているので、他のツールを使っている人は、そのツールが用意しているフレームワークに基づいて、ラッパークラスを作る必要があります。

[#InterSystems IRIS](#) [#InterSystems IRIS for Health](#)

ソースURL: <https://jp.community.intersystems.com/post/odbc%E3%82%92%E5%88%A9%E7%94%A8%E3%81%97%E3%81%A6vismocxcache-direct%E3%82%92%E3%82%A8%E3%83%9F%E3%83%A5%E3%83%AC%E3%83%BC%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%B3%E3%81%99%E3%82%8B>